



白河市のめざす将来の姿

(1) まちづくりの理念

本市は、白河関跡や南湖公園、小峰城跡に代表される歴史、地域で受け継がれてきた伝統文化、阿武隈川や杜川、隈戸川流域に広がる豊かな自然環境、東北自動車道や東北新幹線といった高速交通体系に加え、首都圏に隣接するという地理的優位性による産業の集積など、地域資源に恵まれ、大きな可能性を秘めています。

これらかけがえのない資源をいかし、市民と行政が協働し、共に元気で楽しく暮らすことのできる「将来にわたり持続可能な市民共楽のまち白河」を築き、次世代へと引き継いでいくことが必要です。

また、長い歴史の中でこのまちを育んできた先人たちの英知と努力や、東日本大震災での経験と教訓を礎とし、人口の減少を緩やかにするとともに、近年の大きな社会の変化を機敏に捉え、多くの人が住んでみたい、住み続けたいと思えるバランスの取れたまちづくりを進めていくことが重要です。

そこで、上記の内容を推進するため、白河市自治基本条例第4条に定める次の項目を、まちづくりの理念として掲げます。

1. 市民が望む地域社会の実現を目指し、市民、市議会及び市が一体となったまちづくり

まちづくりは、市民が望む地域社会を築いていくものです。それを実現させるため、市民の声に耳を傾けるとともに、市民と市議会及び市が、連携・協力し、方向性を共有しながら一体となってまちづくりを推進していきます。

2. 歴史、伝統、文化、自然等、本市の恵まれた地域資源をいかしたまちづくり

本市は、首都圏からのアクセスが良く、歴史や文化、伝統、自然環境などの地域資源にも恵まれています。この足元にある資源に光をあて、磨き、いかしながら、白河らしいまちづくりを進めていきます。

3. 子どもから高齢者まで、安全で安心して暮らすことができるまちづくり

少子高齢化が進む中、子育てや教育、医療、福祉を充実させるとともに、都市基盤を整備するなど多角的な視点で防犯や防災の強化を図り、子どもから高齢者まで、安全で安心して暮らすことができるまちづくりを目指します。

4. 地域のつながりと支え合いによる絆を育むまちづくり

東日本大震災を経験した私たちが実感した、地域の助け合いによる「共助」の力は、地域の課題を解決するにあたっても重要なものです。このことから、地域のつながりと支え合いによる「絆」を育むまちづくりを目指します。

(2) 白河市の将来像

まちづくりの理念を踏まえ、白河市の将来像を次のとおり定めます。

星がある。城がある。君がいる。白河

～ Well-being City Shirakawa ～

豊かな自然や歴史・文化が息づき、人と人とのつながりがある白河で、多くの人が日々の生活の中にある「小さくても確かな幸せ」や「真の豊かさ」を実感できる。そんな白河を目指します。

01



市民が望む地域社会の
実現を目指し、市民、市議会
及び市が一体となった
まちづくり

02



歴史、伝統、文化、自然等、
本市の恵まれた
地域資源をいかした
まちづくり



子どもから高齢者まで、
安全で安心して
暮らすことができる
まちづくり



地域のつながりと
支え合いによる絆を育む
まちづくり

03

04

市民ワークショップで

市民ワークショップを開催した際には、こんな意見がありました。

高齢者にやさしく
安心なまち

安心して子育てと
教育ができるまち

中心市街地から
周辺に魅力が
広がるまちづくり

楽しく安全にまちを
歩くことで、
愛着や郷土愛が
生まれるまち

より美しく、
より楽しく、
より快適に

歴史と若者文化の
共存できるまち

「お互い様」許し合い、
笑い合うまち

みんなが
アクセスできる
安全な水環境の維持

笑顔あふれる市役所になって
いただきたいです

「みんながあいさつし合う」が
当たり前のまちへ

窓口へ行く
ことなく
VRやARを使って
話ができる

時代の流れに
遅れることのない
市民サービスの提供

デートできるまち

行政と市民が上手に
連携できる様になって

交通機関の充実



出た5年後に望む姿

自然環境の
保全と活用、
教育と実践を

IT を活用した
窓口業務を

気軽に立ち寄れる
市役所になって

地域全体で支える
学校教育を

中高生、大学生が
農業を手伝える
環境の整備

若者の賃金を上げたり、
IT 関係の仕事を増やしたりするなど、
若者が生活しやすいまち

観光と文化・芸術
(コミネス等)の更なる連携

市民が市内の企業を
知らないのを、
市内の企業フェスなどを
開催して知る機会を

みんなで希望を抱き
笑顔になれる
魅力あるまち

子どもからシニアまで
心の面も体の面も
困ることのない
生活ができること

老人、子どもが
上手に付き合える
コミュニティが
あるまち

水質浄化で
ホタルが
見られるまち

教育に地域との
連携も企業との
連携も

市民が白河の
歴史文化を
知る機会を
設けて欲しい

水道水がそのまま
飲めるように維持



移住者インタビュー



本市に移住してきた方に白河市の良いところ、悪いところ、いかすべき特徴などについてお話を伺ってきました。



Yさん
(40代)

白河は住民の人柄がまじめで、暮らすのにもちょうど良いまちだと感じています。

今後の白河を考えると、城下町なので、小峰城と白河駅周辺からの盛り上がりが大事だと思います。まちなかに核となるような施設やお店などの場所が何カ所かあれば、そこを中心に活気がでてくるのではないのでしょうか。

あわせて、市外の人たちが「行きたいな」と思える、そして、行ってきたことを周囲に宣伝してもらえるようなコンテンツを増やしていくことが大切だと思っています。

大きな都市に比べて、白河は若い人が何か新しいことにチャレンジできる環境にあると感じているので、一人でも二人でも、やりたいことを行動に移す人が増えてくるといいと思っています。

白河市では、普段の買い物に困ることなく生活できています。

仕事については、地元の人が協力的だったので、すぐに農業を始めることができました。農業は、研修や勉強は大変ですが、本人のやる気次第で頑張れば頑張っただけ稼げるところに魅力を感じています。

ただ、白河には大学がなく若者が少ないので、大学生などをもっと呼び込むことが必要ではないのでしょうか。若者が増えれば、まちが活性化するし、農業を学んでいる学生を呼び込むことができれば、農家の後継者不足など地域課題の解決にもつながるのではないかと考えています。



Aさん
(30代)



Rさん
(50代)

移住してきて、白河市は子育てがすごくしやすい環境だと感じました。特に預かり保育が使いやすく、また、都市部に比べて料金も安かったので子育て中は本当に助かりました。

子どもが大きくなってきて感じたのは、教育についてで、もっと思い切った方針を打ち出してもいいのかなと思っています。例えば「個性を大切にする教育」など、白河だから受けられる教育みたいなのがあったら面白いと思います。

白河は地元の人と移住者が打ち解けやすいまちだと思っています。しかし、移住者の中には、自分の居場所を見つけにくい人もいますので、そういう人がいるということを地元の人が知り、声をかけていくなどの行動も必要だと思います。

なにかあっても、思いやりをもってお互い様と言えるまちになることを期待しています。

白河は小峰城やだるま市など見所であふれていて、住んでいて飽きない賑やかなまちだと思います。自然が豊かで公共施設やお店も充実しており、その比率が丁度よいまちだと思っています。

気になるところは、危険な交差点がいくつかあるところです。そういったところは、信号の設置や道路の改良をしてほしいです。また、バスなどの公共交通の本数が増えれば、将来的にもっと安心できると思います。

この行動計画に載っている少子化対策が実施されれば、子育ても前向きに考えられると思っています。それを強みにしたら人口増加にも繋がっていくのではないかと思います。

ダルライザーやダイスも白河の強みなので、SNS で更に押し出してもっとバズって欲しいです。



Sさん
(20代)

コミュニティ・カフェ EMANONに通う 高校生たちに 聞いてみた



本市の若者は高校卒業後、進学や就職のために白河を離れることが多く、人口減少の要因の一つとなっています。

コミュニティ・カフェ EMANON は、若者が地域と関わることで、地元を離れても白河との関係性を持てるように、若年層が集まる場所としてオープンしました。

今では、「高校生びいきの古民家カフェ」、「日常のひとときを過ごす場所」、「地域内外の人とつながる交流拠点」、「地域情報が集まる地域の関係案内所」として活用されています。

そんな EMANON に通う高校生が参加するワークショップを開催し、高校生と「若者の住みたいまち、住みつづけたいまち」をテーマに意見交換を行い、どんなまちに住みたいか、そのために自分たちが何をしたいかを考えました。

参加した高校生の意見（Aさん）



【住みたいまち、住みつづけたいまち】

- 魅力と笑顔があふれる、世代を問わずにみんなでつくる白河市

【そう思った理由】

- 白河の魅力を知ってもらうだけでなく、魅力がみんなの心に残るまちにしたい。
- あいさつしてもらえると気分が上がり、自然と笑顔になれる。また、あいさつがないと安心できるまちにならない。
- 高校生だけでなく、大人や子どもとも一緒に活動したい。

【自分たちがしたいこと】

- 白河を巡るサイクリングコースの設定や、休憩時に白河の果物を食べてもらう、フルーツ馬拉ソンの開催などをやってみたい。
- 中心市街地でのシャッターアートの作成を考えている。このアートをずっと残せれば、たとえ白河から離れても、思い出として残ってくれるはずだと思う。
- 道を歩いていてすれ違った人が互いにあいさつし合えるように、あいさつ運動を広めていきたい。

参加した高校生の意見（Bさん）



【住みたいまち、住みつづけたいまち】

- 性的マイノリティ「だから何？」と思えるまち

【そう思った理由】

- セクシャルマイノリティに対して、差別や過剰な気遣いを感じる。カテゴライズや特別視をせずに、個人を見て欲しい。

【自分たちがしたいこと】

- セクシャルマイノリティについて、小中学生が知らないことに驚いたので、まずは小中学生に知ってもらうためのシンポジウムを開催する。
- 大人に向けては、白河でレインボーマーチを開催することで広めたい。
- 少しでも多くの人に知ってもらえるよう Twitter のアカウントを作っている。

参加した高校生の意見（Cさん）



【住みたいまち、住みつづけたいまち】

- 0 歳から 100 歳までみんなで話せる白河市

【そう思った理由】

- 市民同士の心の距離が遠いと感じる。互いに顔の見える関係性を作りたい。

【自分たちがしたいこと】

- 知らない人同士でもあいさつする「あいさつ運動」のような活動があってもいい。自分も進んであいさつするし、市内の学校で取り組むのであれば、その周知はできる。
- 色々な年代の人が話せるように、みんなで散歩や、年齢が関係ない運動会の開催なんかもやってみたい。

参加した高校生の意見（Dさん）



【住みたいまち、住みつづけたいまち】

- 文化や芸術を肌を感じるまち

【そう思った理由】

- アートだるまがめっちゃくちゃかわいいけど、あまり知られていない。もっと市民が日常で身近に文化芸術と触れることのできるまちにしたい。

【自分たちがしたいこと】

- EMANON でのだるま（できればアートだるま）のワークショップを開催する。
- 美術館などの施設を訪れなくても、身近にアートを感じることができるよう、まちなかや店頭でアートだるまを設置してみたい。
- 芸術祭の宣伝をしたい。学校へのポスターの配布や掲示ならできる。
- だるま市には、たくさんの人が来るのだから、そこで福島ビエンナーレの告知（アートだるまのブース設置など）をやってみたい。
- 市民みんなで発信できるような仕掛けづくりを考えたい。